

# 令和4年度 家庭科実践・研究計画

部 員	○佐々木 絵理子
-----	----------

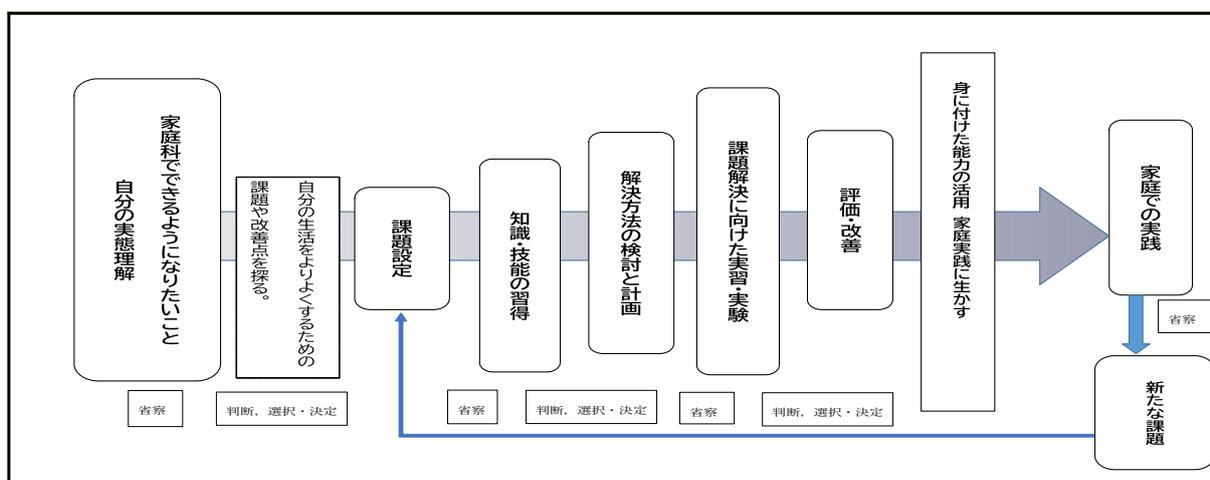
研究テーマ  
**よりよい生活を創り出すために、学んだ知識と技能を用いて自ら実践しようとする子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

家庭科における「自律した学習者」を、これまでの生活経験や学習内容を用いて、家庭科の「見方・考え方」を働かせながら、実践していこうとする姿であると捉えた。また、自分の学びの現在地を自覚し、学習や実践の省察を通して、次の学習へとつなげたり、自分の生活をよりよくしていこうとしたりする姿を目指し、本研究テーマを設定した。協働的な学びを通して、自分と友達的生活や考えの中に類似性や新たな価値があることを発見する。そして、それらの多様な考えや価値を比較・検討する中で、自分の生活をよりよくするための方法を判断し、選択・決定できる力と、身に付けた知識や技能を活用して実践しようとする態度が育つことを期待している。

家庭科で目指す自律した子どもの姿

- 生活をもっとよく工夫するために、日常生活の中から課題を設定し、解決方法を考え、実践活動を評価・改善しながら、課題を解決しようとする姿。
- 生活事象を科学的に見つめ、日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を積極的に身に付けようとする姿。



図：家庭科における自律した学習者の学びのプロセス

## 2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

次の学びや家庭での実践につながる、自分の生活を見つめ直す視点を明確にした授業づくりの手立て

- 生活の中から見いだした課題の解決に向けた題材構成を行い、必要な「学びのものさし」を共有することで、内容に適した省察場面を位置付ける。
- 体験的な活動の中で生まれる新たな気づきや考えを、実習の映像やホワイトボードへの記録を用いた振り返りなどにより可視化し、気づきを促すことで、実感を伴った学びの場を設定する。